「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成３０年度採択）

中間評価結果（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評　価
30-7	養生技術・混和材料を活用した各地域のコンクリート構造物の品質・耐久性確保システムについての研究開発	横浜国立大学 教授　細田　暁	B

＜研究の概要＞

東北地方整備局の復興道路の試行工事ですでに申請者らが構築したコンクリート構造物の品質・耐久性確保システムをベースに、全国の各地域の環境条件、材料事情のもとでの品質・耐久性確保システムを試行工事を通じて構築する。

＜中間評価結果＞

道路管理者の手引きに品質確保システムの成果が反映されたことは評価できるが、システムが地方独自のものか、全国展開が可能なものか、その整理が不明確であることから、指摘事項に留意しながら現行の通り推進することが妥当であると評価する。

＜今後の研究計画・方法への指摘事項＞

1. 本研究課題については、新規採択時に「既に一部の地域で試行されているシステムを用いて全国に展開することを目標に実施される研究開発」であることを評価して採択通知しており、また、1年目終了段階における中間評価の際には、今後の研究計画・方法への指摘事項として「本研究のプロジェクトの成果については、特定の地域での活用の積み上げのみに留まらず、一般化できる事項を整理し、全国共通に活用可能な成果としても仕上げていただきたい」と通知しているところである。このようなこれまでの評価や指摘を踏まえ、本研究で取り組んでいる品質確保システムについては、地域特性が反映されている事項のうち適切な一般化を図ることができるものを整理した上で、該当の事項については全国でも活用できる成果となるように、研究体制に含まれている各大学等とも連携しながらとりまとめをしていただきたい。
2. 開発したひび割れ抑制システムやひび割れ幅を予測する技術について、従来に比べてどの程度の効果が得られたのか不明確であるので、成果のとりまとめにあたっては定量的に示すことが望ましい。
3. 本研究（平成30年度以降）の枠組みの中で取り組んで得られた成果が具体的に何になるのか不明確である。最終的な研究成果のとりまとめにあたっては、研究代表者が従来から取り組んで得られた成果と本研究の枠組みの中で得られた成果を明確に区分して整理していただきたい。
4. 本研究の枠組みの中で得られた成果の取り扱いについては、国総研との委託研究の規定に従うなど、コンプライアンスの確保に特に留意すること。

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第 39 回新道路技術会議において審議したものである。